

2011年度・公式規則変更予定報

日本アメリカンフットボール協会
競技規則委員会



日本アメリカンフットボール協会競技規則委員会では、現在、2011年秋季公式戦から適用される公式規則の変更を作業中です。

この2011年度・公式規則変更予定報は、本年の公式規則変更を予定している主要項目に関し概要を説明したもので、各競技団体の早めの対応を可能にするために発行するものです。本予定報に記載している内容は、今後の作業で変更の可能性があります。正式には本年7月上旬頃に発表予定の2011年度・公式規則変更決定報で公示します。

2011年度・公式規則変更予定主要項目

2011年度の公式規則変更として予定している主要項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の()内の英数字は、この変更が行われる予定の公式規則の主たる「篇一章一条」を表します。

(1) グローブおよび手のパッドの色の規定の削除

☆従来、相手のジャージーの色と類似したグローブ、手のパッドは不正な装具であった。

★本年より、グローブと手のパッドに関する色の規定はなくなる。(1-4-5-m)

(2) タオルの装着場所に関する規定の削除

☆従来、4インチ×12インチ(10cm×30cm)のタオルは、プレーヤーの前面または側面に付ける必要があった。

★本年より、タオルを付ける場所の制限がなくなる。ただし、「白色」、「無地」、「文字・数字・ロゴなどのマークなし」、「大きさ4インチ×12インチ」、「1人につき1枚」という規定は従来どおりである。また、攻撃側の1名のインテリア・ラインマンは従来どおり、大きさに制約がない白い無地のタオルを付けることができる。(1-4-5-o)

(3) ゴールラインの定義の変更

☆従来、ボールキャリアがサイドラインの方向にダイブまたはジャンプをして、空中でボールがサイドラインを横切った場合を除き、ゴールラインの面はサイドラインを越えて外側へ延長されていた。

★本年より、ゴールラインの面はパイロン上を含む両パイロン間となり、サイドラインを越えて延長されない。ただし、ボールがデッドになる前にボールキャリアがエンドゾーンまたはパイロンに触れた場合、ゴールラインの面はサイドラインを越えて延長される。

本変更により、パイロンより外側のゴールラインを越えた位置でボールを確保しているボールキャリアが、ゴールラインの手前で膝をついた場合等は、タッチダウンではなくなる。(2-11-2、8-2-1-a)

(4) 資格を没収されたプレーヤーに対する規定の追加

☆従来、資格を没収されたプレーヤーは、それ以上試合に参加する資格がないと規定されていた。

★本年より、資格を没収されたプレーヤーは、フィールドから離れなければならない、チーム責任者の

管理下で試合終了まで試合会場(フィールドから見えない場所)に留まらなければならない。審判の管理下ではなく、チーム責任者の管理下におかれる。(2-27-12)

(5) ヘルメットが脱げたときの計時の変更

- ☆従来、ボールキャリアのヘルメットが完全に脱げた場合、ゲーム・クロックは計時を停止していた。
- ★本年より、ボールキャリアのヘルメットが完全に脱げた場合、ボールデッドとなるが、他の規則で規定されない限り、レフリー・タイムアウトをとらず、ゲーム・クロックを止めない。(3-3-2-e-10)

(6) 10秒ラン・オフ(減算)の罰則の追加

- ☆従来、罰則によって時計が進む(残り時間を少なくする)という規定はなかった。
- ★本年より、次の場合にゲーム・クロックを10秒ラン・オフ(減算)できるようになる。
前後半の残り1分未満で、ゲーム・クロックが動いているときにどちらかのチームが計時を直ちに止める反則を犯した場合、被反則チームはゲーム・クロックの残り時間から10秒を減算する(すすめる)ことを選択できるようになる。次のような反則がこれに該当する。
 - ・スナップ前、またはスナップと同時に起こる反則(フォルス・スタート、接触を伴うオフサイドなど)
 - ・計時を止めるために投げたインテンショナル・グラウンディング
 - ・不正なフォワード・パスを投げてパス不成功にする被反則チームは、距離罰則を受諾し、10秒減算を辞退することができる。距離罰則を辞退する場合は、ルールにより10秒減算も辞退となる。
10秒減算は、ゲーム・クロックが動いていなかったときや、計時を止めない反則(不正なフォーメーションなど)には適用されない。
距離罰則と10秒減算が施行された後は、レフリーのシグナルで計時は開始される。
反則チームにタイムアウトが残っている場合、チーム・タイムアウトをとって、10秒減算を避けることができる。この場合、次の計時開始はスナップからとなる。(3-4-4、新規)

(7) フリーキック時のウェッジ・フォーメーションに関する規定の追加

- ☆従来、フリーキックのリターンチームの動きやブロックに対して、特別な規定はなかった。
- ★本年より、2人以上のプレーヤーが2ヤード以内に肩を並べて並んで位置することを「ウェッジ」と定義し、フリーキックのリターンチームが、リターナーを守るために相手をブロックする意図で3人以上が一直線にウェッジを形成することは反則となった。これは相手との接触の有無に関わらず反則である。明らかなオンサイドキックには適用されない。また、結果としてタッチバックとなった場合は反則はない。ノンコンタクト・ファウルで、罰則は15ヤードである。(6-1-9、新規)

(8) フィールドゴール・プレースキック時の守備側の制限の追加

- ☆従来、フィールドゴール・プレースキック時の守備側に対する特別な規定はなかった。
- ★本年より、フィールドゴール・プレースキックを試みるフォーメーションにおいて、ブロッキング・ゾーン内で守備側のプレーヤー3人が肩を並べて位置し、スナップ時に前方に向かって一緒に動き、3人が1人の攻撃側のプレーヤーに接触した場合、反則となる。不正なフォーメーションで、5ヤードの罰則。(6-3-14、新規)

(9) 攻撃側のラインマンの足の位置に関する規定の削除

- ☆従来、スナッパーの両隣の2人のプレーヤーは、スナッパーと足を組んでも良いが、他の攻撃側の

ラインマンは、ボールがスナップされる時は、自分の両足を隣のプレーヤーの足の外側におかなければならなかった。

★本年より、攻撃側のスクリメージ・ライン上のすべてのプレーヤーは、隣のプレーヤーと足を交差させてもよい。(7-1-3-b-2)

(10) フォルス・スタートと不正なシフトの定義の変更

☆従来、ハドルやシフトに続いてスナップがある場合、攻撃側の全プレーヤーは、ボールがスナップされる前の少なくとも1秒間は足、胴体、頭、および腕を動かさずに、完全に停止し、その位置で静止しなければならないと規定されており、それに反する場合はライブボール中の反則で不正なシフトであった。

★本年より、以下の2つの場合に分かれる。

1. レディ・フォー・プレーの後、スナップ前に攻撃側の11名のプレーヤーが1秒間の静止を行わなければ、デッドボール中の反則で、「フォルス・スタート」となる。
2. レディ・フォー・プレーの後、スナップ前に1秒間の静止の後にシフトがあり、再度静止することなくプレーが始まった場合、ライブボール中の反則で、「不正なシフト」となる。(7-1-4-a)

(11) インテンショナル・グラウンディングとなる条件の変更

☆従来、時間を節約するためのパスにおいて、Aチームの有資格プレーヤーがパスをキャッチする機会が全くない区域に向かってパスを投げた場合は、インテンショナル・グラウンディングの反則であった。

★本年より、「パスをキャッチする機会が全くない」という条件がなくなり、有資格プレーヤーがいる区域に投げられたパスは、インテンショナル・グラウンディングの反則ではなくなる。(7-3-2-d)

(12) 12人以上でプレーした場合の罰則距離の変更

☆従来、12人以上でプレーした場合は、「不正な参加」で、罰則は15ヤードであった。

★本年より、12人以上でプレーした場合、「交代違反」で、罰則は5ヤードとなる。(9-1-5-b)

(13) 腰より下のブロックに関する規定の変更

☆従来、スクリメージ・プレーでの中央から離れたプレーヤーのフィールドの外側から内側への腰より下のブロック、キックのダウン中、確保の変更があった後等のいくつかの例外を除き、腰より下のブロックは正当であった。

★本年より、次に挙げる例外を除き、腰より下のブロックをしてはならない。

<例外> (腰より下のブロックが許される場合)

1. ボールキャリアに対して。
2. チーム確保の変更前のスクリメージ・ダウン中(キック以外)の以下の場合。

(a) スナップ時の攻撃側プレーヤーで

- (1) 中央のラインマンから7ヤード以上離れているスクリメージ・ライン上のプレーヤー
- (2) タックル・ボックスの外側のバックフィールドにいるプレーヤー
- (3) モーションをしているプレーヤー

は前方(サイドラインに平行)あるいは外側(スナップ時に、近いサイドラインの方向)に向かって腰より下のブロックをしてもよい。

(b) スナップ時にタックル・ボックスの中にいたプレーヤーおよびスクリメージ・ライン上で攻撃側の中央のラインマンから7ヤード以内に位置していたプレーヤーは腰より下のブロックをしても

よい。

(c)スナップ時にブロッキング・ゾーンをサイドラインまで延長させたゾーンの中に位置する守備側のプレーヤーは、バックワード・パスを受けようとする位置にいる攻撃側のプレーヤーへの場合を除き、ブロッキング・ゾーンが消滅するまで腰より下のブロックをしてもよい。

(現行:9-1-2-e、変更後:9-1-6)

(14) アウト・オブ・バウンズのプレーヤーに対するブロックの規定の追加

☆従来、アウト・オブ・バウンズにいるプレーヤーに対するブロックの規定はなかった。

★本年より、いかなるプレーヤーも、アウト・オブ・バウンズにいるプレーヤーに対してブロックを開始することは反則となる。パーソナル・ファウルで、罰則は15ヤード。(9-1-7、新規)

(15) ライブボール中のスポーツマンらしからぬ行為に対する罰則の変更

☆従来、ライブボール中のスポーツマンらしからぬ行為は、デッドボール中の反則として扱われ、サクシーディング・スポットから15ヤードの罰則であった。

★本年より、ライブボール中のスポーツマンらしからぬ行為の反則については、他のライブボール中の反則と同様に取り扱われる。この変更により、ライブボール中にスポーツマンらしからぬ行為の反則があり、かつそのプレーが得点となった場合、反則の受諾によりその得点は無効となる。なお本項目は、2010年度・公式規則変更決定報で2011年から適用として予告した項目である。(9-2-1)

(16) Bチームのスポーツマンらしからぬ行為に対する罰則の変更

☆従来、Bチームのスポーツマンらしからぬ行為の反則に対する罰則として、自動的に第1ダウンを与えることはなかった。

★本年より、Bチームのスポーツマンらしからぬ行為の反則に対して、距離罰則とともに、自動的に第1ダウンとなる。(9-2-1)

以上